

日本霊長類学会高島賞の選考について
2023 年度日本霊長類学会高島賞選考結果報告

本年度の高島賞に対する 1 名の応募を受け、高島賞選考委員会の選考委員 6 名によって審議を行った。西村庶務担当理事の陪席のもと、オンライン会議形式で選考委員会を開催した。選考委員会では、応募者の対象となる業績およびこれまでの研究活動全般について、学会の規定、従来基準等に照らし合わせて慎重に審議した。その結果、応募者である壹岐朔巳氏の業績とその内容が高島賞の選考基準に達しており、受賞にふさわしいと判断し、選考委員全員一致で推薦することを決定した。

【壹岐朔巳氏の推薦理由】

壹岐朔巳氏は、地獄谷野猿公苑で餌付けされたニホンザル群を対象に、遊び行動を成立させる要因について様々な視点から掘り下げることで、比較的研究の歴史の長いこのテーマについて、新たな展開を提示してきた。

著作 1 および 2 では、ニホンザルのコドモ同士が遊びを開始する前に交わす対面行動が、遊びの持続時間やお互いへのボディ・コンタクトを促す機能をもつことを明らかにした。比較的順位序列が厳しい社会をもつニホンザルは、アイコンタクトなどの対面行動は威嚇の意味をもつと考えられてきた。しかしながらこれらの著作は、そうしたニホンザルでもコドモ期における遊び場面では対面行動が友好的なインタラクションを促す機能をもつことを示唆している点で、画期的な研究であると評価できる。またヒト以外の霊長類において、対面行動といった、自己と他者の二項関係の情動的活動に焦点をあてた研究は少なく、本著作は、ヒト乳幼児と同様にニホンザルでもコドモ期では対面行動が社会的インタラクションを促す基盤となることを示唆した点でも意義深い。

著作 4 では、遊びがケンカへと発展して終了した事例を詳細に分析し、コドモ期での遊びでも社会的順位の影響を既に受けていることを明らかにした。コドモ同士の遊びは、一見すると社会集団での順位など関係なく行われている印象をもつが、遊びの中で攻撃的な行為を受ける傾向にあるのは順位の低い母親をもつコドモであり、そうした行為がエスカレートすることでケンカへと発展し遊びが終了することを新たに発見した本研究は、非常に興味深い。

また、壹岐氏は研究対象を警戒行動に発展させ、著作 6 では近接個体の数と社会的関係が対象個体の警戒レベルに与える影響について調べた。一般に群居性の動物は、群れサイズや近接個体数が増すと、個体ごとの警戒レベルは低下すると考えられている。しかしながら、本著作では、近接個体が血縁であるときは個体数が増えるにつれて対象個体の警戒度は低下する一方で、近接個体が非血縁の場合は個体数が増えても警戒度は低下しないことを示した。この結果は、群れサイズや近接個体の数だけでなく、群れのメンバー間の社会関係性が霊長類の警戒行動に影響することを新たに示した点で、高く評価できる。

壹岐氏によるこれら一連の論文は、いずれも筆頭著者として国際学術誌に掲載されている。地獄谷野猿公苑のニホンザル群を対象に、発達心理学、生態学など多様な領域からの視点を取り入れ、霊長類学では古典的な研究テーマである遊び行動や警戒行動について新たな側面を提示した点は高く評価されるべきであり、今後の更なる発展が大いに期待される成果である。

審査対象著作

1. Iki Sakumi, Hasegawa Toshikazu. Face-to-face opening phase in Japanese macaques' social play enhances and sustains participants' engagement in subsequent play interaction. *Animal Cognition*, 23(1), pp. 149–158, 2020.
2. Iki Sakumi, Hasegawa Toshikazu. Face-to-face configuration in Japanese macaques functions as a platform to establish mutual engagement in social play. *Animal Cognition*, 24(6), pp. 1179–1189, 2021.
3. Iki Sakumi, Kutsukake Nobuyuki. Play face in Japanese macaques reflects the sender's play motivation. *Animal Cognition*. Online First: 8 December 2022. <https://doi.org/10.1007/s10071-022-01730-5>
4. Iki Sakumi, Kutsukake Nobuyuki. Victims of play escalation rank below aggressors in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *International Journal of Primatology*, 43, pp. 365–383, 2022.
5. Iki Sakumi, Kutsukake Nobuyuki. Social bias affects vigilance contagion in Japanese macaques. *Animal Behaviour*, 178, pp. 67–76, 2021.
6. Iki Sakumi, Kutsukake Nobuyuki. Japanese macaques relax vigilance when surrounded by kin. *Animal Behaviour*, 179, pp. 173–181, 2021.

2023 年度高島賞選考委員会委員長